

特集 核・原発のない世界へ

5面 加盟YWCA中央委員会報告

7面 YWCAフェスタ in 長崎 ―全国会員集会へのお誘い

No Nukes! No Nuclear Power Plants!

# 核・原発のない世界へ

## 大切なのは いのちを守ること

Special Issue

特集

3月11日に起きた「原発震災」によって大量の放射性物質が放出され、今、私たちは被ばくし続ける世

「原発震災」



鎌仲ひとみ  
映画監督

# 被ばくし続ける世界の 希望とは

界に生きるようになってしまいました。この、未曾有の事態をどう受けとめたいのか、多くの人々は悩み、苦しみ、混乱していると思います。私自身も大きな衝撃を受け、これからどうしたらいいのか、模索している状態です。

被災地、特に福島の人々は地震・津波、そして原発事故による放射能汚染という三重苦に苦しんでいらっしやいます。一つのサイトに6基の

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)  
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する  
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題  
平和を実現する人々は幸いである―マタイによる福音書5章9節

8

AUGUST  
2011

No.703

www.ywca.or.jp

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
  - ・平和憲法をまもり、世界に広める
  - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
  - ・女性と子どもの権利をまもり
  - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

## 世界YWCA総会開催

世界125カ国に広がりを持つYWCAの4年に1度の総会が、7月11日～16日、「女性が創り出す安全な世界」をテーマに、スイスのチューリッヒで開催され、全世界から1000人を超える女性たちが集まりました。この期間中に同会場で開催された国際女性サミットも開催されました。各国の女性たちの私的経験から国際政治に至る課題を、100余りの国の、無数の文化と人種・経験を持つ10代から80代の女性たちが共有して受けとめ議論できたのは、私たちは国境や国籍を超えて姉妹であるという信頼のもと、安心してありのままの自分をさらけ出せる「安全な場」を一人ひとりの参加女性たちが創り出したからだと確信しています。

日本YWCAから出席した18人は、ブース・ワークショップほかさまざまな場で、原発事故の状況と「福島」の女性たちの声を伝えながら地球規模の脱原発を訴え、多くの女性たちの共感と連帯を生み出すことができました。

選挙の結果、世界YWCA新会長にデボラ・トーマス（トリニダード・トバゴYWCA会員）、会計にはキャロライン・フラワーズ（アメリカYWCA会員）が選ばれました。また8地域から18名の運営委員、その中から6名の副会長が選出されました。30歳以下が60%を占める結果となり、ユースのさらなる活躍に期待が膨らみました。

(日本YWCA職員 根岸朋子)



原発が密集し、そのうちの2基が爆発、しかもそのうちの1つ、3号基はプルサーマル燃料だったためウラン燃料よりも毒性が格段に高いプルトニウムが汚染に加わってしまいました。このような事態はこれまで人類が経験したことがありません。非常に人口が密集した地域がこれほどの放射能汚染を受けるといことは未だかつてないことです。

福島から210キロ離れた首都圏にも放射性物質は拡散し、短時間ですが通常の100万倍もの放射線量が観測されました。大阪のし尿処理場の放射能汚染値も高まっています。これは大阪で放射能汚染された食品が出回っていることを示しています。安心な食品・清浄な空気・豊かな大地が放射能汚染を受け、長くこの汚染が残る。しかも事態の収束は当面見込めない、放射性物質の放出は進行しています。

### 原子力プロバガンダ

3・11の「原発震災」が起きて、次々と原発の安全神話が崩れ、驚くべき無責任体質が明るみに出てきて、人々は驚き、あきれいています。自分たちがこれまでいかに原子力発電というものに興味を持たず、思考停止状態で電力会社や政府の言うことを信用してきたか理解し始めたのです。本当に長い間、日本人は原子力プ

ロパガンダの影響を受け続けてきました。テレビで原発を取り上げることは一切できませんでした。私の最新作、「ミツバチの羽音と地球の回転」の舞台になっているのは上関原発の建設予定地（山口県熊毛郡上関町）です。その予定地に向き合う祝島は、千年の歴史と文化を継承するユニークな地域です。この島や建設予定地付近の田ノ浦は生物多様性の宝庫でもあります。その文化や生物多様性をテーマに番組が作られても原発のことは一切触れられてきませんでした。

原子力エネルギー政策が国策として進められ、巨大な資本を持つ電力会社がマスメディアのスポンサーとなっていることで原発のリスクに関しては一切伝えないどころか「原子力は安価である」「原子力発電はCO<sub>2</sub>を出さないでエコである」「安全対策は万全である」「日本は資金がないから原子力が必要」というメッセージのみを強調し続けてきた結果として、原子力発電がなければ電力の安定供給はないという思い込みが蔓延してきました。このようなあり方を私は原子力プロパガンダと呼んでいます。繰り返し、繰り返し、同じメッセージを大企業である電力会社や経済産業省の名の下に宣伝し続けてきた結果、これらのメッセージは日本人の意識に深く根を下ろし

てしまったのです。

### 核とエネルギーを巡る3部作

1998年にイラクに行き、がんや白血病になった子どもたちに出会いました。大量に劣化ウラン弾を使った戦争が終わって何年も経つのに、子どもたちの病気は増え続け、子どもたちの命を奪い続けていました。経済制裁で薬も満足にない状況で、医師も私も無力でした。劣化ウランで汚染された土地で生活することで、内部被ばくが起きます。生きるべき、子どもたちの命を被ばくで奪う社会の不条理、そして自分自身がそれに加担させられているということにも気がついてきました。

劣化ウラン弾の原料は原子力産業のゴミであり、その時点で核の平和利用は破綻しています。大きな構造の中で被ばくしながら救済のない人々が世界中で増え続けています。私はそのことを知ってしまいました。だから何もしないわけにはいかないのです。私が何もしくなくとも誰も責めないでしょうが、私自身が子どもたちの死を自分自身につながるものとして受けとめてしまった以上、それを無視して生きることは不可能でした。かくして、マスメディアではできない、被ばくの本質を描く映画作りが始まりました。その取り組みはやがて、日本の原子力産業

へ、そして、エネルギーの未来へとつながり3本の映画が出来上がりました。

### 広がるネットワーク

3本の映画は地域の草の根の市民によって上映されてきました。映画を観て終わりにしない、自分たちでできるアクションにつながるような運動として上映は展開していきます。映画館のない町や村で上映され、地域に人々のネットワークが構築されてきました。ささやかな気づきが共有され、広がって、地域を根底から耕していくようなイメージです。人々はつながることでの力を増します。そのような力を今、日本は必要としていると思います。お上が国策として推進してきた原子力エネルギー政策を本当の意味で転換できるとしたら、市民、一人ひとりの意識が転換する以外にない。上からではなく下から、私たちの力で変えることが、3・11以降の希望ではないでしょうか。私たちが意思表示し、未来を選択する力をつけていかなければ持続可能な社会は実現しないのだから。

#### Profile

大学時代は探検部に所属。核と放射能と原子力発電について映画作成を続け、「ヒバクシャ―世界の終わりに」（2003年）・「六ヶ所村ラプソディー」（2006年）に続き、昨年「ミツバチの羽音と地球の回転」を世に出した。

### 憶えておく

#### 歴史の証言者として

横山由美子

2011年3月11日以降を、私たちはいかに生きていけばよいか。東日本大震災の大地震・大津波、そして東京電力福島原子力発電所の事故は、多くの犠牲とあらゆる断断を生み出し続けている。

特に、人類史上初の原発事故のメルトダウンとメルトスルーは、今後どうなるのか、どうしたらいいのか誰にもわからない。また、放射線基準値を変えてまで守らなければならないのは、いったい何なのだろう。「直ちに健康に影響はない」「海に流しても希釈されるので影響は大きくはない」「風評被害」など、世界の常識さえ封印し、国民は霧の中にいるようだ。しかし、はつきりと見えてきたのは、国家やマスコミが、本当のことを伝えなかった事実である。忘れてはならない。私たちは、未だ人類が経験したことのない歴史の途上にいる証言者として、今までとこれからの憶えておこう。

震災直後、あと十数日で中学2年になろうとする子どもは深刻な事態を知り、「当たり前前に、今日と同じような明日が来ると思って眠りに就いた日が懐かしい」と呟いた。親として、大人として、申し訳なく涙が止まらなかつた。安全な場所であんまり生活させたいと願いながら、子どもたちが強制的にヒバクさせられているのは不条理である。

日本YWCAは、核兵器だけでなく原発を含めた「核」否定の立場で運動してきた。先輩たちの先見の明を誇りに思うと同時に、私は何をして何をしてこなかったかを悔しさを抱きつつ思い返している。

今ここから、いのちを大切に選ぶ一歩を踏み出そう。必要なのは、巨大な力（国家・アメリカ・原子力）に依存しないで、市民の力で安全を創りだしていくことではないか。霧が晴れて光を見出せるように、未来を切り拓くのは私たち市民である。

（日本YWCA運営委員）

# 「核」否定の思想に立つ

今、東京電力福島原発大事故を前に、私たちは、YWCAが40年来、その基本的立場としてきた「核」否定の思想に立つ」の言葉に、改めて身の引き締る思いで向き合っている。

この言葉が私たちの運動の強調点第一に初めて掲げられたのは1970年の全国総会であった。当時、新憲法公布後20年余、憲法改定の動きや、これからは核エネルギー時代、平和利用を大いに進めようという意見も広まってきた頃であった。一方、今こそ平和憲法を根付かせねばという動きも盛んとなる。日本YWCAもすでに61年全国総会で、誰もがができる憲法の勉強を各地YWCAで行うと申し合わせ、まず松岡勸子さん構成の朗読劇「平和のとおり」が東京・湘南YWCA等で

上演され、その後各地域・全国レベルでさまざまな形で憲法研究会が積み重ねられる。その結果が70年の、いわゆる「平和利用」も含めて否をいう「核」否定であった。

日本YWCAは、現代文明全体が自分だけの強さや豊かさを求めて、人間を、地球を踏みつけ、大きな破局に至らしめる道を歩んでいるのではないかと考え、それをカッコつきの「核」で表現した。それゆえ、「核」否定の思想に立つ」とは、「核」を頂点とした現代文明のあり方に否を言うことであり、自分たちの生き方を問い直す決意であった。

「核」否定を言うからにはと、翌71年8月に第1回「ひろしまを考える旅」、続いて11月に第2回が行われる。私はこの第2回が初参加であった。この時は参加者

に教育関係者も多く、これはぜひ若い人たちが、ということ、次の年からは中高生が増え続け、そこに大人や、アジアその他からの留学生も混じるという「中高生ひろしまを考える旅」が、以来40年余、地域あるいは全国規模の憲法研究会そのもとと共に続いている。

この間、被爆者の方々はじめ実に多くの方が証言者・講演者・リソースパーソンとして、種々の「旅」や研究会の企画・相談の段階からかわり助けてくださった。そして敬愛してやまぬYWCAの先達方。中には大牟田稔さん、高木仁三郎さん、関屋綾子さん、松岡勸子さんら、逝かれた方々も多い。言い尽せぬ感謝と共にこれらすべての方々との出会いを思う。

「出会い」は私たちの目を、心を、真実に向けて開いてくれる。1980年の旅に参加した、ある中2の少女は主要次のように書いている。「旅」の前、私は一生懸命

命勉強して、原爆のこともいっぱし知っているつもりだった。しかし病院で、あるおばあさんから、娘さんが真つ黒焦げの団子のようになって死んだ話を聞き、涙と共に手をとられて、お願いしますよ。平和な世界をつくって、と言われた時、自分は実は何も知らなかったのだと気づいた。

高木さんはキリスト者ではなかったが、創世記・ヨブ記など愛読しておられたようだ。ある時、次のようなことを語られた。「今、我々の知る限り、生命のある星は地球だけだ。放射能減衰後の地球上に現れた生命を育む基本的3条件は、遺伝子の安定、生態系の安定と共に、原子の安定だ。核開発はそれを壊すこと。人間は『天の理』『地の理』を弁え、いのちを守る責任がある。」

人間として、「核」否定「いのちを守る」道を共に歩んでいきたい。

東京YWCA 渡辺 峯

## DVD 「原発震災・ニュースリール」紹介

- No.1 小出裕章 (京都大学原子炉実験所)  
「福島原発で何が起きているか」(56分)  
No.2 「福島原発で何が起きているか—その2」(60分)

製作・著作：森の映画社・影山事務所  
監督：藤本幸久／インタビュー：影山あさ子  
撮影：栗原良介／頒価各1000円

京都大学原子炉実験所の小出裕章さんへのインタビュー記録である。広島に落とされた原子爆弾は800gのウランを燃焼したが、今日標準的な100万kWの原発は、1日3kgのウランを燃焼し、発生熱300万kWのうち200万kWは海に捨てる。発電によって、最悪の生物学的毒性を持つプルトニウムが溜まっていく。異端視されながらも、小出さんたちごく少数の研究者たちは原発の危険性を訴え続けてきた。東京電力福島原発の事故は「収束に向かっていない」こと、破局的爆発回避のため放射能を流し続け、今後数多くの原発労働者の高濃度放射能被曝が避けられない等、原子核工学の専門家として私たちが直視すべき事実を教えてください。

語られるのは、被害を小さく見せたい東電や政府が流す情報のフィルターに向こうにある、信頼に足る情報である。初心者にも分かりやすい誠実な語り口から、事故を防げなかった痛恨の思いがひしひしと伝わる。時間の経過とともに事態の深刻さに鈍感になりがちな私たちへの鋭い警鐘である。

京都YWCA 上村 兪己子

### ■同シリーズ

- No.3 村田三郎 (阪南中央病院副院長)  
「被曝とは①—体内被曝と体外被曝—」  
No.4 村田三郎 (阪南中央病院副院長)  
「被曝とは②—子どもの被曝・労働者の被曝—」  
No.5 今中哲二 (京都大学原子炉実験所)  
「チェルノブイリと福島」  
No.6 小出裕章 (京都大学原子炉実験所)  
「福島の子どもたちへ」  
No.7 河田昌東 (チェルノブイリ救援・中部 理事)  
「汚染の中で生きる—チェルノブイリから学ぶこと—」  
No.8 今中哲二 (京都大学原子炉実験所)  
「低線量被曝とは」  
No.9 小出裕章 (京都大学原子炉実験所)  
「3ヵ月後の今」

申込みは影山あさ子事務所まで。  
FAX:011-206-4570  
e-mail:marinesgohome@gmail.com  
詳細は  
<http://america-banzai.blogspot.com/>

## この痛みを感じてください

東京電力福島第一原発の北西60kmに位置する福島市そして計画的避難地域から10kmの地点に、私の住む渡利地区があります。地区内の放射線量は、相変わらず2~4μSv/hで、この人災である原発

事故は脆さと危うさを露呈しながら未だ収束の見通しが立たず、私たちの平穏な日常生活を壊し、季節感まで奪っている現状です。東京に住む孫たちも「福島は放射能が高いから行けないんだよね」と例年と違う夏休みに戸惑いと寂しさを感じているようです。

そして福島市からは大勢の子どもたち園舎の中で1日を過ごしています。ここで生活していることについて、「子育てをする大人としての責任放棄じゃないか」と、私を含め多くの保護者にメールや電話が来ています。「子どもだけでも県外に」とも考えますが、我慢だらけの日々のストレスを、スキんシップで紛らわせている子どもたちの様子を見ると、迷

が全国各地に避難して行きました。その「決断」に至るには、それぞれの家庭で夫婦・親子の絆が崩れ、学校で、職場で人間関係が壊れ、社会が乱されています。このような中であって私たちは願います。どうかウランよ、プルトニウムよ、これ以上暴れないで鎮まって！ 安らかに最期を迎えてくださいと。そして祈りま

います。震災以降、小5の息子でさえも無意識に私や夫の体に触れるようになり、娘の夜泣きもはじまりました。「親もこの際、夏休みを長く取ろう」という話がある一方で、「休みを願ひ出たら『辞めてくれ』と言われた」という相談が増えています。避難命令が出ていない限り、何の補償もありません。この地から動かないのではな

## 福島市で子育てをする親の思い

我が家は福島市内でも線量の高い地域にあり、次男の通う小学校は、土壤転換をした今も屋外活動は時間を制限しています。春の遠足・運動会・プールの授業も中止になり、保育園に通う2歳の娘も、

園舎の中で1日を過ごしています。ここで生活していることについて、「子育てをする大人としての責任放棄じゃないか」と、私を含め多くの保護者にメールや電話が来ています。「子どもだけでも県外に」とも考えますが、我慢だらけの日々のストレスを、スキんシップで紛らわせている子どもたちの様子を見ると、迷

います。震災以降、小5の息子でさえも無意識に私や夫の体に触れるようになり、娘の夜泣きもはじまりました。「親もこの際、夏休みを長く取ろう」という話がある一方で、「休みを願ひ出たら『辞めてくれ』と言われた」という相談が増えています。避難命令が出ていない限り、何の補償もありません。この地から動かないのではな

く、動けないのです。避難指示が出せないのなら、この地に住み続けられるように、除染や医療体制・食べ物の問題などについて、早急に対策を立ててほしいと切望しています。福島市 佐藤晃子

## 原発の暴走

「おうい雲よ ゆうゆうと 馬鹿にのんきさうじゃないか どこまで行くんだ ずっと磐城平の方までゆくんか」

山村暮鳥

こんな詩が作られたほどにゆつたりと自然な福島を一体誰が被曝地に？ チェルノブイリでは今もなお、苦難の生活が続いている。そして、暴走する原発はついに福島を襲った。これから起こるさまざまな危機が頭をよぎる。原発には「絶対安全」と言うことはない。この史上最悪とも言

える事故と、それに続く補修のずさんさには目を覆いたくなる。作動させるべきではなかった東京電力福島第一原発だった。今や世界規模で脱原発の動きが広がっている。だから今こそ、あの事故以来の姿勢を正した政府の毅然たる業界への対応が求められる。これを抜きにしては、日

本の将来に希望は持てない、そう言えるほどの計画を実行してしまつた産業界と国政を動かす時であると思う。日本全土のみならず、全世界の原発は不要である。その全世界の空は続いている。海は続いている。広島YWCA 遠藤節子

## 静岡に暮らして

東日本大震災による東京電力福島原発の事故の放射能物質の放出は、日本国内だけではなく世界中がその被害に恐れていた。結婚して日本に来ている私に、韓国の両親はより安全な韓国に家族を連れて

帰国しなさいと強く説得するくらいだった。率直に、自分とはともかくも、まだ幼い娘たちが、旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所事故の時の子どもたちと同じような被害にあうのではないかと、とても心配でパニック状態だった。この事態が収まるまでは帰国しようかと迷っていた。実際

には福島原発避難地域から随分離れているのにもかかわらず、子どもたちの安全のために、もっと遠くに避難している親がたくさんいる。子どもを放射能から守ろうとするのは当然なことでしょう。特に、心配していた東海地震の震源域の真上に立つ浜岡原発が、たくさんの方の働きのおかげで全機停止となった。一

部電気は大丈夫かという心配の声もあるようだ。しかし、原発震災による被害の恐ろしさに比べれば、節電等で多少不便を感じることは私は何も問題とは思わない。「今まで電気と資源を使い過ぎてきた私たちだから、普段の生活を見直さなきゃ」と強く反省している。静岡YWCA 宋在英

# 加盟YWCA 中央委員会報告

5月21日(土)～22日(日)に今年度の加盟YWCA中央委員会が、陪席38名を含む88名の出席者をもって開かれました。2日にわたる委員会での報告協議の中から以下の3点に括り要約してご報告いたします。

## (1) 東日本大震災を経験し

被災地である仙台・福島YWCAの生の声から事態の深刻さを改めて実感し、YWCAとしてできることを話し合いました。

① YWCAの中で基地・原発についてのスペシャルリストを積極的に活用し、プログラムを展開する ② 原発・基地のある地域YWCA間のネットワークの強化およびそのサポートを行う ③ 原発発に関する「想定問答集」を作成する ④ 原発事故や震災に関して多言語での情報共有の場を提供する ⑤ ホームページに女性・子どもの視点から「原発をなくそう! そのためにできること」を掲載する。

## (2) 新しい仲間

① 特定非営利活動法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンターの準加盟が承認されました。前身であ



福島YWCA会長からは、福島の状態や、若いお母さんを対象にした学習会について報告された。



22日午前中の「原発の問題と基地の問題から『いのち』を考える」と題する協議5では、沖縄からのメッセージを聞き、今私たちにできること、世界に発信したいことを協議。

る福祉専門学校での教育実践を活かし、福祉現場で働く人々へのサポートを主な活動内容とします。

② 若い会員を増やすことを目的に、地域YWCA支援委員会が実施したグローバルワークショップでトレーニングを受けた5名が各々のテーマでプレゼンテーションを行い、参加者から高い評価を得、YWCAの中で若い力が育っていることが実感できました。

③ 浜松YWCA解散が承認されました。①②とは反対に、仲間であり、61年の活動の歴史を持つ浜松YWCAが諸事情により解散に至ったことは非常に残念なことです。会員の皆様はこれからも個人としてなんらかの形でYWCA



5人のインターンが「フェアトレード」「子どもボルノ」「キャリア・マップ」「パレスチナ」「アートを通してHIVと共に生きる人びとの大切なものが守られる街づくり」をテーマにプレゼンテーション。

の活動に連なっておきたいと思えます。

## (3) 世界へ向けて発信

① 7月にチュウリツヒで開催される世界YWCA総会で冊子配布。沖縄・原発・被災地の女性や子どもたちへのメッセージを書いてもらう ② 女性と子どもの安全の視点から、原発・基地問題に直面している世界のYWCAとの情報共有およびネットワークの強化 ③ 2015年の世界YWCA総会の決議に「非核」採択を目指す。

早速に行動に移さなければならぬ課題が出され、各地域での取り組みが期待されます。

日本YWCA書記 手島千景

## 種

彼の受けた懲らしめによって  
わたしたちに平和が与えられ  
彼の受けた傷によって、  
わたしたちはいやされた。

(イザヤ書53章5節)

「主の僕の苦難と死」の題のもと、イエス様の一生を予言する旧約聖書イザヤ書52章13節から53章にわたって記されているこの箇所を目にした時、私はイエスさまがまことの神であり、人であり給うたということが確信できました。愛する人のためにでも自分を犠牲にすることはなかなかできないのに、自分を痛めつけている人たちのために、一言も発せずに自分の命を差し出すということは、何かと弁解がましく生きていく自分を顧みると、「神さま以外にこんなことはできない」と思わずにはいられなかったのです。それ以来、この箇所は私にとって最も大きな意味を持つ聖句の一つとなりました。

精神科医であり、著述家でもある神谷美恵子先生の有名な詩に「癩者らいしやに」という多くの人の心を打つ詩がありますが、ハンセン病を病む人の中にイエス様の姿を見るこの詩は、聖書のこの箇所に触発されていらっしやることとはいうまでもないと思います。私のために死んでくださったイエス様に、どれだけ深い感謝を持って従っているかを強く迫る聖句です。

江尻美穂子

東京YWCA会員

東京  
YWCA野尻キャンプ  
80周年

東京YWCAの野尻キャンプは、1931年より始まり、今年で80周年を迎えた。これを機に野尻キャンプを盛り上げようと、プロジェクトメンバーによって多くのイベントが企画・実施されている。5月28日(土)より始まった「写真展

## 本の紹介



『命こそ宝  
沖縄反戦の心』  
(岩波新書)

阿波根昌鴻／著  
岩波書店／発行  
740円(税抜)

「命めこそ宝」(命こそ宝)、この本のタイトルです。この本は、伊江島で、沖縄戦を経験し、一人息子を失い、戦後は、土地を米軍にとられ、それでも反戦地主として生涯闘い続け、さらに、反戦平和資料館「ヌチドウタカラの家」をつくり、伊江島で起きていること、戦争、そして平和について発信し続けた阿波根昌鴻さんが、その人生と思いを書き綴ったものです。この本全体は、阿波鴻さんが私たちへ語りかけるような形で書かれています。非常につらく、目を覆いたくなるような現実が記されていますが、それを阿波鴻さんが柔らかく語りかけてくれることで、受け入れることを可能としてくれています。

阿波根さんの語りからは、その純粋で一途な思いがひしひしと伝わってきます。それは、決して自分たちが被害者であるために行動しているというのではなく、平和という人類にとって普遍的に求めるべきもののために行動しておられたことからくるのでしょう。そのため、この本では、日本が犯した過ちについてももちろん考えさせられます。

阿波根さんは、その平和を求め、行動していくためには、何か特別なことをするのではなく、生活の場から行っていくことが基本であるということを教えてください。それは、私たちに沖縄だけではなく、私たちの身の回りで起きている平和ではないものと向き合うことを教えてくれる言葉なのかもしれません。

日本YWCAビジョン2015推進委員  
樋口さやか

80年の歴史を写真と資料でふりかえる」では、野尻キャンプ場やその地元で撮影された当時のキャンプや集いの様子を想像しながら見ることが出来る。興味深いことに、野尻キャンプのリーダーたちは、キャンプ開始当初の写真を見ても、「どの辺りで、何をしているのか、だいたいわかってしまう」という。当時から残るメインホールや、野尻湖畔の水泳場やボート場、また野尻キャンプでの1日が、あまり変わらぬ形で現在も残っていることに改めて驚かされた。



さらに、野尻キャンプ場よりはるばるやってきたカヌー「ヤンキー号」＝写真上＝は、東京YWCA会館のロビーに展示され、写真展を盛り上げた。1934年から野尻キャンプ場

で使われてきたヤンキー号が、野尻湖に浮かぶ姿を思い浮かべ、多くの人が野尻に戻りたいと思ったに違いない。歴史を振り返るこのイベントをスタートに、今まで野尻キャンプに関わってきたキャンパーやリーダーたちを招き、5月29日(日)に感謝会を実施した。つい最近までキャンパーだった人から、野尻キャンプと同じ年齢の人まで、合わせて88名が集った。80年間の写真のスライドショーや、キャンプソング、野尻クイズなどで楽しみ、それぞれが持つ野尻キャンプの思い出を語り合う時間となった。2011年7月16日(土)～18日(日)には「東京YWCA 80周年記念キャンプ」の実施を予定している。大人でも野尻キャンプの魅力をたっぷり体験できる内容になっている。また、リーダーやスタッフと同じく、野尻キャンプを支えてくれた地元の方たちを対象に、「食育」をテーマにしたワークショップを8月27日(土)～28日(日)まで実施する。

野尻キャンプが80年積み重ねてきたものが、こうして集った多くの仲間たちやプロジェクトメンバーとなって、今、野尻を盛り上げている。これこそが野尻キャンプの素晴らしさの表れだと感じる。今回、歴史から見ることできたリーダーシップの育成や、自然や友と共にあることの大切さを、これからのキャンプでも伝えていきたい。

東京YWCA職員 是常景子

# YWCAフェスタ in 長崎

全国会員集会へのお誘い

出会って、語って、学んで、行動しよう!

カラダとココロとアタマをつかって考え、参加者同士が楽しく交流することは「安全な世界」を創りだす第一歩! 東日本大震災を経験し、日本中が悲しみと不安の中にある今こそ、YWCAが求め続けてきた「非核」「非戦」の実現のために多くの人が手をつなぎ進む時です。ぜひご参加ください。

■テーマ: Women Creating a Safe World ー女性が創りだす安全な世界ー

■日時: 2011年11月26日(土) ~ 27日(日)

■会場: 活水女子大学(長崎市)

■対象: YWCAに関心のある方はどなたでも

■定員: 130名

■プログラム



|           |  |
|-----------|--|
| 11月26日(土) | 12:30 / 開会「ようこそ長崎へ!」 → 14:10 / 公開講演(オープンプログラム)ーニャライ・グンボンズ<br>バンダ世界YWCA総幹事(予定) → 15:30 / 「ニャライさんを囲む会」(希望者のみ) → 16:00<br>/ フリー交流タイム(各YWCA活動紹介ブース) → 17:00 / 長崎ピースナイト(夕食含む) |
| 11月27日(日) | 9:00 / 礼拝 → 10:00 / 分科会「女性が創りだす安全な世界」をテーマに7つの分科会 → 13:00 /<br>全体会 → 14:30 / 閉会 → 15:00 / 終了  |

■分科会:

- ①Let's Try! ピースサイレント アピール ー全ての世代で実行可能! あなたにもできる 平和のアピールー  
(福岡YWCA平和グループ)
- ②怪獣ゲンパツドン(神戸YWCA平和活動部)
- ③DV被害をうけた女性と子どもの包括的支援の実際~大阪YWCAの場合~(大阪YWCA女性エンパワメント部)
- ④多文化共生ワークショップ~「サンチャゴくん、なんで?」~(大阪YWCA国際部委員会 開発教育研究会)
- ⑤平和の継承~若者・高校生たちの声をきこう~(活水高校YWCA / 活水高校平和学習部 / 長崎YWCA)
- ⑥「アートで街づくりスタディーツアー inケニア」の実現に向けて(京都YWCA / 2010年度日本YWCAインターン)
- ⑦いのちをつなぐデモクラシー~沖縄問題を「女性への性暴力」の視点から考える~  
(日本YWCAビジョン2015推進委員会)

■参加費:

- 一般 1万円、学生 5000円
- 学生ボランティア(九州在住) 3000円
- 九州地区中高生は無料招待
- 参加費にはプログラム費・交流会費用・26日夕食代・27日昼食代・保険料が含まれます。
- 交通手段・宿泊先は各自ご手配ください。

■オプションツアー:

- オプションツアー①(11月26日8:30 ~ 11:00)  
全国会員集会実行委員会主催...2コース(被爆地めぐりコース、日韓・日中の歴史コース)  
参加費:無料。ただし現地で入館料をお支払いください。
- オプションツアー②(11月28日10:00 ~ 15:00)  
長崎YWCA主催...遠藤周作記念館、ド・ロ神父記念館  
定員:先着24名、参加費:3000円(昼食代込)

■申込締切:9月26日(月)

■申込方法:

- ①申込用紙を郵送・FAX・メールのいずれかでお送りください。
- ②参加費は郵便振替でお振り込みください。  
(郵便振替番号00170-7-23723(財)日本YWCA)  
通信欄に「全国会員集会参加費」とご記入ください。

■キャンセルについて:

- 11月18日(金)以後のキャンセルはキャンセル料2000円(交流会費他)をいただきます。
- 前日キャンセルの場合は半額返却します。
- 当日キャンセルの場合は全額返却できません。
- 詳細は募集要項(各YWCAにて配布、日本YWCAホームページに掲載)をご覧ください。

主催:日本YWCA全国会員集会実行委員会

Email: office-japan@ywca.or.jp TEL: 03-3292-6121 FAX: 03-3292-6122



「花が楽しめる花  
花カフェ」は、中区  
精神保健福祉ボラ  
ンティアグループ  
「かもめサポート」  
と横浜YWCAとの  
協働運営事業です。  
昨年度「横浜市精  
神障害者社会適応

花が楽しめる  
花カフェ  
横浜YWCA

訓練事業」の協力事業所として登録されま  
した。カフェは、当事者(スタッフ)数名の他、  
店长・スタッフの見守り役の「いるボラ」、ス  
タッフと共に働く「するボラ」が、毎日交代  
しながら担当しています。お茶は必ず手作  
りのクッキーがついて300円、毎週月・火曜  
日にはケーキセット600円をご用意し、横浜  
YWCA会館1階で週5日、午前11時から午後4  
時まで開店しています。今年度から、第4木曜  
日に横浜YWCAのシニアサロンへのランチ  
も始まり、メンバーは皆、張り切っています。

「するボラ」の私は、スタッフの様子をみな  
がら手伝いをしていますが、「はっ」と考えさ  
せられることも多く、学びの日々です。いろ  
いろな重荷を負って歩んで来られたスタッ  
フの皆さんが少しでも「楽しかったなあ」と  
感じる日が増えるようにと願っています。

地域の皆様に支えられて今日まで続けて  
くることができました。今後ともどうぞよろ  
しくお願い申し上げます。

横浜YWCA 井上玲子

被災者支援  
活動報告

長い道のりを共に歩むために  
緊急支援から生活再建支援へ  
全国の取り組み

6月23日(木)日本YWCA被災者支援プロジェクトに加え、仙台YWCA・福島  
YWCAのメンバーが仙台YWCA会館にて一同に会しました。夏に向け、各地域の  
YWCAでさまざまな活動の情報交換が行われました。この夏、各地域YWCAで福島  
や新地町、また各地域に避難している子どもたちを対象にしたキャンプへの受け入れ  
やセカンドハウスプログラムが始まり、夏だけに終わらず、今後も学校の休みを利用  
して、息の長い活動が展開できそうです。

東京電力福島第一原発事故は日が経過するにつれ、放射能汚染の深刻さが露呈  
し、福島および隣接都県でも不安が広がっています。6月23日には福島YWCA主催  
で、幼い子どもを持つお母さんを対象とした、こころのケア・プログラムが開催さ  
れ、よりその必要性が高まっています。福島YWCA、そして福島の人々の「福島の子  
どもたちを守ってほしい」という切実な声に、今後も耳を傾け、出来ることを考え、  
実行していかなければなりません。今後、YWCAの大切な支援活動のひとつになると  
予想しています。

一方、地域差はありますが、YWCAが関わっている福島県相馬郡新地町では、緊  
急支援から仮設住宅を中心にした生活支援へと移行が始まっています。派遣コーデ  
イナーには全国各地のYWCAから送り出しが続けられています。また、同じ町で各  
小学校とつなぐテレビ電話での相談プロジェクトも歩み始めました。

「こころのケア」は被災地だけに限らず、被災者が避難されている都道府県の  
YWCAや関係諸団体での講座開講と今後の訪問活動への準備が着々となされています。

仙台YWCAはその活動の方向性を被災者支援に向け、取り組んでいます。会館に  
宿泊中の国際NGOへの食事提供を宮城学院女子大学生と共に実施しています。また  
仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク(通称「東北ヘルプ」)とのさらなる協働  
も今後の課題です。

仙台YWCA・福島YWCAと協力しながら、私たちYWCAは生活再建への長い道の  
りを共に歩み続けます。被災地で、各地域で、これからも情報交換をし、活動を続け  
て参りましょう。今後ともご協力をよろしくお願いします。

日本YWCA被災者支援担当幹事 前田圭子

被災地の惨状について、避難  
所で暮らす人たちの苦労につ  
いて、暴れる放射能を鎮めよ  
うと懸命に働いている人々に  
ついて言つべき言葉がない▼原  
発は国策だからという理由で  
政界も学会も思考停止に陥っ  
ていた▼その呪縛を先ず断ち  
やっとなをあげはじめた私た  
ち有権者がさらに議論を重ね  
発言していくこと。

【あとがき】  
これまでの合計  
638件 29,530,079円

- ご協力ありがとうございます
- 賛助費
- 内海公子 神谷候子 三股まさ子
- 熊江雅子 寺嶋公子 三股奈津子
- 古川道子 棚美津保 武内富貴代
- 渡辺寛子 渡辺文子 梶原恵理子
- 汐崎貞子 鹿野幸枝 俵 恭子
- 中村紀子 泉 和子 実生律子
- 石川松子
- 事業支援寄付
- 石川松子 金剛静慧 武井多佳子
- 広島YWCA
- (ひろしまを考える旅)
- 田中美智子 広島YWCA
- 国際協力募金
- (パレスチナYWCA支援募金)
- 京都YWCA
- (オリーフの木キャンペン募金)
- 梶山順子 小山沙織 北川万梨子
- 横山正代 森 妙子
- (変革の力基金)
- 神戸YWCA
- (世界YWCA総会派遣募金)
- 俣野尚子 長崎YWCA
- 平塚YWCA 東京YWCA
- (ワンコイン募金&  
全国メッセージキャンペン)
- 7個人、7地域YWCA
- (2011年6月20日現在敬称略)
- 東日本震災被災者支援募金にご  
寄付いただきました皆さまのお名  
前は、12月号に掲載する予定です  
ご了承ください。